

<b>11月</b> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">例会 個人</span> <b>山行報告書</b>		報告者	江頭	参加 メンバー	江頭
		報告日	12月10日		
山域	四国	山行日	08年11月17日、18日、20日		
山名	琴平山、石鎚山、鬼ヶ城山、剣山				

山行目的	晩秋の四国の山を愉しむ	コースタイム(天候:天気図記号)
------	-------------	------------------

配布先  
集会:10  
山行:1  
リーダー  
原紙:集  
会担当者

ルート図(地図を見て正確に)

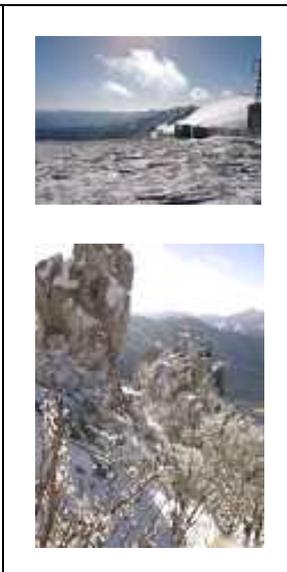
2.5万分の1地図:

11月16日(日) 晴れ  
12:30 金刀比羅宮駐車場  
13:30 奥社  
14:30 金刀比羅宮駐車場

11月17日(月) 晴れのち曇り  
08:00 土小屋駐車場  
10:00 石鎚山山頂  
11:30 土小屋駐車場

11月18日(火) 曇りのち晴れ  
07:30 宇和津彦神社  
10:30 鬼ヶ城山山頂  
12:30 宇和津彦神社

11月20日(木) 雪のち晴れ  
11:30 宮の越  
13:00 剣山山頂  
14:00 宮の越



琴平山; 幼少より暫くの、琴平山(金刀比羅宮お参り)から四国の旅をスタートしよう。装備をバッチリ決め、商店街を抜ければ整備の行届いた石積みの登山道。両脇を隙間なくお土産物屋さんが固め、大勢の登山客で賑わう。ここまで道が整備されていれば、ハイヒールで登ってくる女性がいるのもうなずけよう。極めて単調な急登を785段ほど詰めれば本宮へ。ここより先、うって変わって静かな山旅と成り、緩やかに583段を加えて奥社へ。おみくじを引いてこれからの山行を占う。展望台から琴平町の眺めが素晴らしい。

石鎚山; 前夜、西条市からR194、県道40と繋ぐが道幅狭く、カーブ連続。運転に疲れ吉野川上流部(?)で爆睡。翌朝、よさこい峠を経て土小屋の駐車場。石鎚山国民宿舎の上部から入山。良く整備された道、足取り軽い。鶴ノ子ノ頭を過ぎたあたりで、石鎚の大きなシルエットが垣間見えた。廻りの山々も程よくガスが絡み、幻想的。程なくして二の鎖、手前の小屋で小休止。鎖場を前に折りしも休憩中の玄人と思しき方にアドバイスを請えば、『今日は足元も滑るし、気をつけて。鎖の三角形に足を入れて登るけん』ん?要領を得ないまま取り付くも、高度感と異様に大きな鎖の取扱いに戸惑い、10Mほど絡んで退散した。無理やり降りるのもまた難儀成り。素人用の巻き道を選んで、頂上に至れば対峙する天狗岳の鋭い岩峰が天を突く。合掌。

鬼ヶ城山; 石鎚を下山してふと開いたガイドブックのページに鬼ヶ城。名前に惹かれていくも良し。前夜、闘牛の宇和島へ。登山口近くの宇和津彦神社境内に一宿を眺める。翌朝、神主さんへ登山中の駐車を相談すれば、『下山後にでもお参り戴ければ...』神の御心にふれる。神社から約1000Mの登降を楽しめる、市民の山とガイドは言うが、案の定、誰にも会わない。1000Mほどか?この高さで冷風吹きつけると見えて、ガスが巻き始めた。一旦車道に飛び出し、大きな周辺図の看板、道標に従って再度森へ入る。霧中を夢中で山頂へ。晴れなら宇和島湾を一望できそうだが残念でした。二拝二拍手一拝の作法にて大國主命と宇和津彦命に下山報告。

剣山; 四国はお遍路の国、しがない旅の輩にも気さくに声をかけてもらえる。そして時と場所を選ばない。地元の方々と早朝5:00に会話を愉しんだあと、さてと、本日剣山取り付きに定めた見の越まで、ここから100KMはある。運が良ければそのうち高気圧が張り出すかも知れぬ、ともかくもR22を北上開始。しかし道が山間を縫うようになると本格的に雪となり、ここは信濃です甲斐?何度も独り言をつぶやく。有名な大歩危、小歩危を過ぎ県道32へ乗り入れると積雪30CMはあろう、峠で道路をふさぐ倒木を掻い潜る始末。ふと、天然温泉『祖谷(いや)温泉』の看板が飛び込んでき、温泉に外されっぱなしの今回の旅、何者かに言われるまま、だめでもともと、途中下車を決めこむ(時間を使ったほうが、天候回復がすむかも)。正解であって、ケーブルカーで下るJ.G.K.N温泉を満喫。半日掛かって見の越に着いてみれば、太陽が眩しい。スパッツまで準備は気が廻らなかったのがヤッケのズボンでごまかして、つるぎ、新雪、人なし、360度。神の恵みにはしゃく。今週で終わりのヒュッテで、『あめ湯』を戴けた。ひとり平たい山頂から、太平洋まで見通す眺望は忘れ難し。これだから山はやめられんけ

確認  
確認

作成  
江頭  
'08.12.10

ん! リーダー-所見>  
リフレッシュ休暇を戴いて四国の山を満喫。思いつきで尋ねた山もあったが天候と良く相談して攻めた。国道と言っても、山間部は道幅が"非情"に狭く(無慈悲で破廉恥な道路開発をしていない点では素晴らしい)、アプローチの算段に注意が要る。安くて美味しい讃岐うどんもいただき、新雪のプレゼントももらってよかったね。